

## ● 事業所ごみ減量の実践に向けた取組の例

減量の実践には、①準備し、②現状を把握し、③計画を立てて、④実行して、最後に⑤見直し、これを繰り返しながら成果を上げていくことが大切です。

### ① 準備

ごみを減量するための「方針」を策定する。  
廃棄物の「管理責任者」を選任するなど、体制を整える。



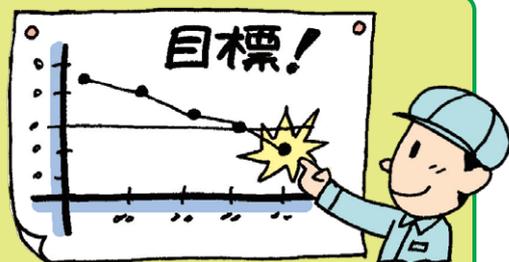
### ② 現状把握

業務において発生している「ごみの種類や量」を把握する。  
ごみの発生源を把握する（どこで、どのような理由で発生しているのかを調べることは、ごみの減量のカギとなります）。  
ごみや資源物の行先を把握し、どの業者を経由して最終的にどのように処分されているか確認する。



### ③ 計画を立てる

上記②の現状把握に基き、ごみの減量計画を策定する（排出量の多いごみから取り組む、減量化やリサイクルが容易なものから取り組む、法令に基いた処理となっているか確認する、などの点がポイントとなります）。  
年間の減量目標（減量率）を決める。



### ④ 実行

ごみの区分に応じ分別の徹底を図り、ルールに則った適切な処理を行う。  
回覧や張り紙など、従業員への継続的な啓発を行う。



### ⑤ 点検と改善

定期的に履行状況の確認を行い、必要に応じ改善に取り組む。

